

水彩画教室 「昭和の国立駅前／中央線」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

赤い三角屋根が印象的な昭和の国立駅前です 1926年に中央線の新駅として誕生した国立駅は 2026年に開業100周年を迎えます 駅名は国分寺と立川の間に生まれたことに由来し 学園都市 国立の玄関口として計画的に整えられました 広い駅前広場にはバスや自動車が行き交い 学生や市民の日常を支える活気がありました 洋風木造駅舎の美しい姿は 単なる交通施設を超え この街そのものの象徴でした 100年の時を経た今も この風景には昭和の国立が抱いた理想の都市像と 人々の記憶がやさしく息づいています



これが完成した絵です



1、青空は「ホリゾンブルー」 樹木の葉は何種類かの緑を重ねます



2、主題の駅舎は 単純な赤だけではなく 茶系の色を重ねます



3、張り出した駅名板と半円形の窓も 国立駅らしさを表しています



4、駅前の店舗も大切です 背後はゴルフ練習場のネット



5、ややレトロな自家用車やタクシーも丁寧に 床下は暗く



6、「立川バス」も 多摩地区の駅前らしい特徴の一つです